

ウ 下田市

(7) 下田市立下田中学校

1 2年間の取組の状況

(1) 研究テーマ

「誰一人取り残さない授業づくり ～対話的な学び・協働的な学びを通したWell Being～」

(2) 研究テーマについて

本校では、「共につくる」をキーワードとして授業を中心とする教育活動を行っている。「誰一人取り残さない授業づくり」について教師だけが考えるのではなく、全校集会で生徒に「誰一人取り残さない授業とはどういうものか」という問いを投げかけ、各学級で話し合う場を設定して意見を求めた。また、令和5年度に設置されたコミュニティ・スクールを活用し、地域の方々も生徒たちのよりよい学びの実現に向けて参画している。

変化が激しく、予測困難な世の中で、生徒一人一人が主体的に自分の人生と向き合い、対話を手段として多様な他者と協働し、自分の幸せを追究したり、社会をよりよいものにしていこうとする姿勢が育ったりしていくような学校を、生徒や教職員、保護者や地域の方々と共につくっていきたいと考えた。「誰一人取り残さない授業づくり」を探究することが、「誰一人取り残さない学級づくり、学校づくり」につながると考え、研究テーマを設定した。

(3) 研究テーマ実現に向けた取組

ア 生徒と共につくる授業

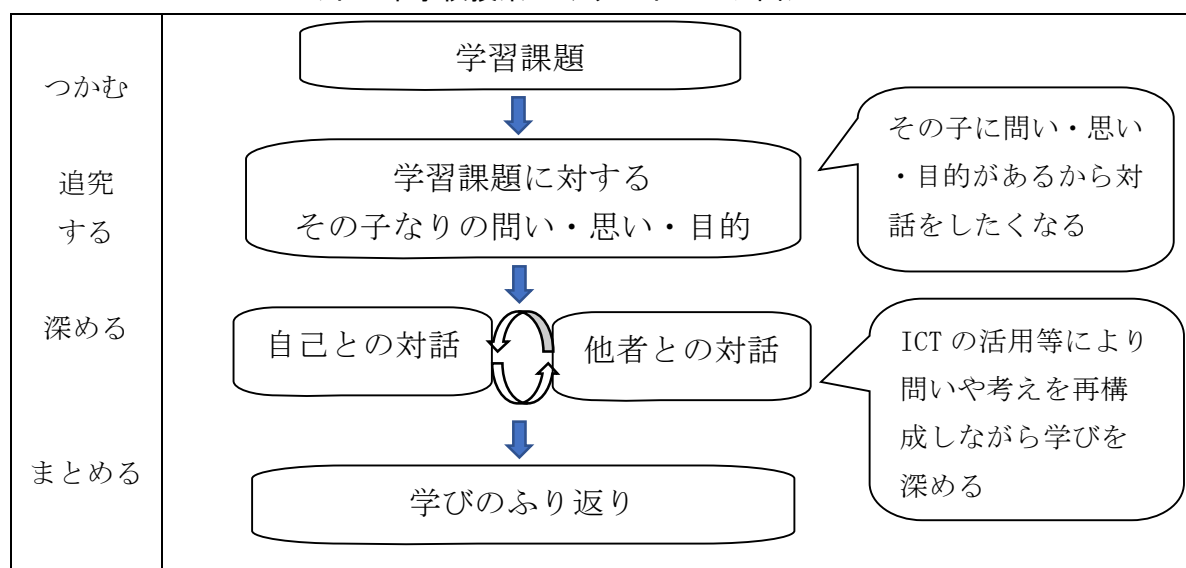
「誰一人取り残さない授業とはどのようなものか」ということについて生徒と共に考えたところ、「みんなが参加している授業」「みんながわかった・できたと思える授業」「一人一人の学びがある授業」「お互いのよさや違いを認め合える授業」などの意見が出た。このような授業をつくる第一歩として、生徒が「なぜ」「どうして」という問いをもったり、「やってみたい」「できるようになりたい」という思いを抱いたりして、主体的に学びに向かうことが大切だと考え、以下のポイントを意識して授業づくりを行った。

- ・単元や本時の目標、ねらいなどを達成することにつながる学習課題を設定する。
- ・課題設定の際、生徒の「問い」や「思い」を引き出す。
- ・学習課題を視覚化する。

生徒一人一人が問いや思いをもって主体的に学びに向かうことで、対話をしたり、ICTを効果的に活用したりしながら問いや考えを再構成し、学びを深めることができる。そして、そうした授業の積み重ねにより目指す資質・能力が育まれ、現在、そして未来の個人と社会のWell Beingの実現につながっていくと考えた。



＜下田中学校授業づくりのイメージ図＞



イ 人生や社会を豊かにするキャリア教育の推進 ～地域の方と共につくる学び～

総合的な学習の時間では、「下田で学ぶ」「下田から学ぶ」をキーワードに、下田市内外の「人」「もの」「こと」を資源として、自分やまちの未来について考える学習を3年計画で進めている。コミュニティ・スクールを活用した職業体験や職業講話だけでなく、総合的な学習の時間の年間計画や実施計画をつくる等、年間を通して地域の方と共に授業づくりを行っている。生徒は、下田を知り、下田を愛することを意識した体験活動を契機に、探究的な学習に取り組んでいる。

令和6年度には、地域で働く方を講師として招き、キャリア形成について学んだり、生徒が自分自身の生き方について考えていることを、車座になって講師の方に相談したりする「キャリア座談会」を行った。また、生徒が幅広い視点で自分の生き方について考えることができるよう、希望する職種の方とオンラインでつなぎ、市外に住む様々な方から話を伺う場も設定した。

生徒一人一人が、「どのような大人になりたいか」「どのような人生を歩んでいきたいか」というビジョンをもつことが、現在、そして未来の Well Being につながると考え、地域の方々と共にキャリア教育を推進した。



キャリア座談会



職業講話（オンライン）

ウ 校内研修の充実と効率化

(7) 生徒の姿をもとに語り合う授業づくり研修

本校の研修では「生徒の姿から学ぶこと」を大切にしている。公開授業後の研究協議では、着目生徒の表れから授業づくりについて学んだ。また、各学級で気になる生徒をピックアップし、「エピソード記録」という形で気になる生徒の些細な表れを記録した。その記録をもとに学年部職員で様々な角度から話し合い、生徒への理解を深めた。

(4) 「観」を磨き合う回覧板研修

テーマを中央に書いた用紙に、一人一人が意見を書いて回覧する回覧板研修（資料4）を、学期に一度実施した。お互いの意見や考えを見合うことで、「誰一人取り残さない授業づくり」に向けて「観」を磨き合った。



- ・「よい授業」とは？
- ・「学び」とは？
- ・「誰一人取り残さない授業・学級」とは？
- ・「10月の校内研修で学んだことや今後の実践に生かしたいこと」
- ・「よい学習課題」とは？そのために日々の授業で意識していることは？

回覧板研修のテーマの例

エ 授業と授業をつなぐ家庭学習

(7) 「選択制」の推進

「言われたことを言われた通りに取り組む」という受け身の学びでなく、「自分は〇〇が必要だから学ぶ」「□□ができるようになりたいから練習する」という主体的な学びの姿勢を育むために、本校では家庭学習において「自己選択」「自己決定」の場を大切にしている。右の写真のように教科担当がいくつかの選択肢を示し、生徒は自分が必要だと思う学習内容を自分で決めて取り組んだ。令和6年度には、本校の方針や取組を学習部通信（資料5）という形で保護者に発信した。家庭学習を「学校任せにする」「各家庭に任せる」という考えではなく、「生徒と保護者、教師で共につくる」というビジョンの共有を図った。

内容（以下の中から選択）

基礎問題集（P46～47）

基礎問題集（自分で取り組む場所を決める）

自学（問題の直し直しなど）

AIドリル

「自己選択」「自己決定」を
大切にした家庭学習

(4) 「非認知能力」を高めるスキル学習

非認知能力を測定できるサービス（Edv Path）の中に、「対人関係スキル」や「自己理解」など項目別のコラムやワークがある。それらを活用し、家庭学習の選択肢の一つとして取り入れ、生徒は学んだことや感想をロイロノートで提出する取組も行った。

2 2年間の成果のまとめ

(1) 学習課題に重点を置いた授業づくりについて

【教師のふり返りより】

- ・生徒の思考の流れに沿って、**生徒と共に学習課題をつくる(設定する)**ことが、誰一人取り残さない（みんなが主体的に学びに参加できる）授業になると実感した。
- ・**学習課題によって生徒の一時間(単元)の学びが変わる**ため、細かな言葉までこだわって考えるようになった。また、「**学習課題の見える化**」について意識するようになった。
- ・自分のイメージで「この方がわかりやすいかな」と考えるよりも、「**生徒はどう考えるか**」「**生徒からこんな声があがるといいな**」という思考で授業を考えるようになった。

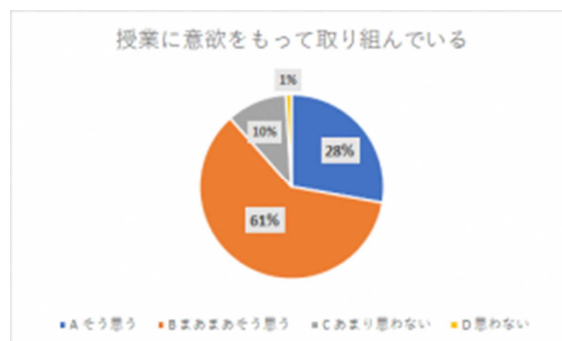
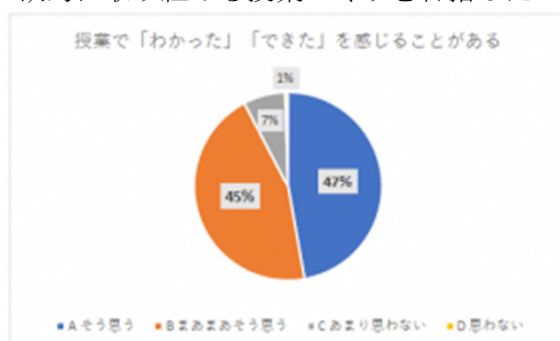
教師が生徒の思考や視点に立って考えられるように変化したことは、研究の取組の成果の



自己・他者と対話をしたり、ICT を効果的に活用したりして
問いや考えを再構成しながら学びを深める姿

一つであるとする。生徒の問いや思いを学習課題として設定することを意識したことで、以下の写真のように課題解決に向けて主体的に学ぶ生徒の姿が見られた。

令和6年12月に実施したアンケートでは、「授業で『わかった』『できた』を感じることもある」という項目で92%の生徒が肯定的な回答をした。一方で、「私は授業に意欲をもって取り組んでいる」という項目について、肯定的な回答をした生徒は89%であったが、その中でA（そう思う）と回答した生徒は28%と低かった。学習課題を生徒と共にすることを意識して取り組んできたが、「問い」や「思い」が一部の生徒のものであることが多かったため、このような結果が出たのかもしれない。ICT を効果的に活用し、いろいろな生徒の「問い」や「思い」にも目を向けて学習課題を設定することで、残りの72%の生徒も意欲的に取り組める授業づくりを目指したい。



また、エピソード記録をもとに学年部職員で気になる生徒について話し合ったことで、次のような生徒の変容が見られたことが明らかになった。

【他者との関わりが増えたAさん】

2年生のときは「できないこと」が受け入れられず、自信がなかったAさん。自信が持てず、自分から他者に関わりを求めることができなかった。そのような背景の中、3年生の1学期には特定の級友との関わりが主だったが、2学期には授業や日々の生活の中でいろいろな仲間との関わりが増えた。担任が本人と話をすると、周りの仲間からの声掛けもあり、人間関係を広げることができたことがわかった。相手から関わりを求めてきてくれることが嬉しかったようで、そのことから自信が生まれ、「自分からみんなに関わってみよう」という気持ちをもって安心して発言できるようになったことがわかった。



【不登校から復帰したBさん】

Bさんは2年生の途中まで不登校だった。3年生になってからは登校できるようになったが、他者と関わることはできなかった。授業者が「わからないときは人に聞いてもいいよ」と言っても、自分の席を離れて聞きに行ったり、隣の席の友だちに話しかけたりする姿は見られなかった。常に教師の支援を待っており、じっとしていることが多かった。

しかし、3年生の2学期に入ってから表情が明るくなり、授業中も自分から友だちのところに关わりを求めるようになった。ある教師が「1学期よりも友だちとの関わりが多くなったけれど、何かきっかけはあったの?」と聞くと、「うーん、Cさんがいたからかな」と笑顔で話していた。

このような生徒の変容は、教師が一方的に説明をするような授業からは生まれない。対話や追究が自然と生まれるよう、生徒の問いや思いをもとに学習課題を設定したり、意図的に他者と関わる場を設定したりしてきたことが、このような生徒の表れを生んだのだろう。

また、非認知能力の学校個別レポートを見ると、生徒が所属する学級等のコミュニティの安心感があり、その中で自分を高めようと活動できていることが読み取れる。安心感のある学級づくりが進んだことで、自然と互いに意見交換ができたり、わからないときに仲間に気軽に質問したりすることができるようになった。授業づくりと学級づくりを別のものと捉えるのではなく、「授業を通して学級をつくる」という意識をもつことの大切さを実感した。



表1 【学校個別レポートより(5段階評価の平均値)】

	コミュニティへの満足度	友人との関係性	教師との関係性	クラスの心理的安全性	自己肯定感	自己実現的態度
全国平均	3.3	3.9	3.0	3.3	3.4	3.6
下田中	3.5	4.2	3.2	3.5	3.6	3.9

(Edv Path 検査結果より)

(2) 人生や社会を豊かにするキャリア教育の推進について

生徒一人一人が、「どのような大人になりたいか」「どのような人生を歩んでいきたいか」というビジョンをもつことができるよう、地域の方々と共にキャリア教育を推進してきた。令和6年度11月に行ったキャリア座談会の授業後に、3年生を対象としたアンケート(表2、資料3)では、2019年に18歳の若者を対象とした国際調査と類似した質問をし、以下のような結果が見られた。

表2 キャリア形成に関する意識調査 3年生 n=117

	質問項目	肯定的な回答
本校	キャリア座談会を通じて、将来のイメージがもてた	95.7%
国際調査	私は将来の夢をもっている	60.1%
本校	自分はいずれ責任ある社会の一員になることがイメージできた	95.7%
国際調査	自分は責任がある社会の一員だと思う	44.8%
本校	将来、下田や地域(国や社会)を変えられると思う	82.9%
国際調査	自分で国や社会を変えられると思う	18.3%
本校	下田や地域、社会のニュースや課題などについて、友達、もしくは家族と話をするようになった	48.7%
国際調査	社会課題について、家族や友人など周りの人と積極的に議論している	27.2%

アンケート結果からは、本校生徒は総合的な学習の時間を中心としたキャリア教育を通して、将来へのイメージをもったり、自分も社会をつくる一員であるという当事者意識を高めたりすることができたと考えられる。キャリア教育を、「自分の生き方の探究」と捉えて授業を行ってきたことで、自分や社会の現在、そして未来のWell Beingを実現していこうとする姿勢が育っていると感じた。

(3) 校内研修の充実化と効率化について

【生徒の姿から学ぶ授業づくり研修のふり振り返りより】

- ・これまで、自分が生徒にどう投げかけ、どのように授業を進めるかを考えていたが、生徒の表れを中心に話し合いをしてきたことで、「生徒はどう思うか」「どう考えるか」を意識するようになった。
- ・課題の解決方法について教師が示すだけでなく、生徒に「どうやってみたい?」と聞くのもよいと思った。
- ・誰一人取り残さない授業の形とはどのようなものか、始めは他力本願だったが、研究を進める中で、自分の中でも何かしらの答えを見つけながら取り組むことができた。とても充実していたし、自ら考えることができるようになったことが一番の効率化だったと思う。

「教師が何をしたか」以上に「生徒がどう変容したか」が大切である。このように「生徒を主語にした授業づくり」が進んだことは、研究の成果の一つである。

回覧板研修については、「他の先生方の見方や考え方を
知る機会となった」「自分にはない考えを知ることが
できてよかった」「場所や時間に関係なく、自分の考え
を発信でき、他の先生の考えを受け取ることができるこ
とはよかった」といった声があがった。また、「他校に
異動しても続けたい」という教師もいた。このことから、
回覧板研修はお互いの「観」を磨き合う上で有効な手立
てであり、持続可能な取組であることがわかった。「学び合う」「学び続ける」職員集団づ
くりが進んだ。



(4) 家庭学習について

主体的に学ぶ姿勢を育むために、家庭学習で「自己選択」「自己決定」の場を設定してきたことで、生徒からは「自分の学力に合った家庭学習ができた」「自分のやりたい学習や必要だと思う学習ができてよかった」といった声があがった。一方で、令和6年の12月に実施した生徒アンケートでは、約30%の生徒が家庭学習の習慣が身に付いていないことがわかった。この結果から、現在の取組が学習意欲の向上や家庭学習の習慣化につながっていない生徒もいることが明らかになった。

また、筆記試験のような「見える学力」を高める学習だけでなく、非認知能力のように生きていく上で重要なスキルを高める学習には大きな価値があるが、この取組も現在試行段階であるので、今後よりよい方法を探っていきたい。

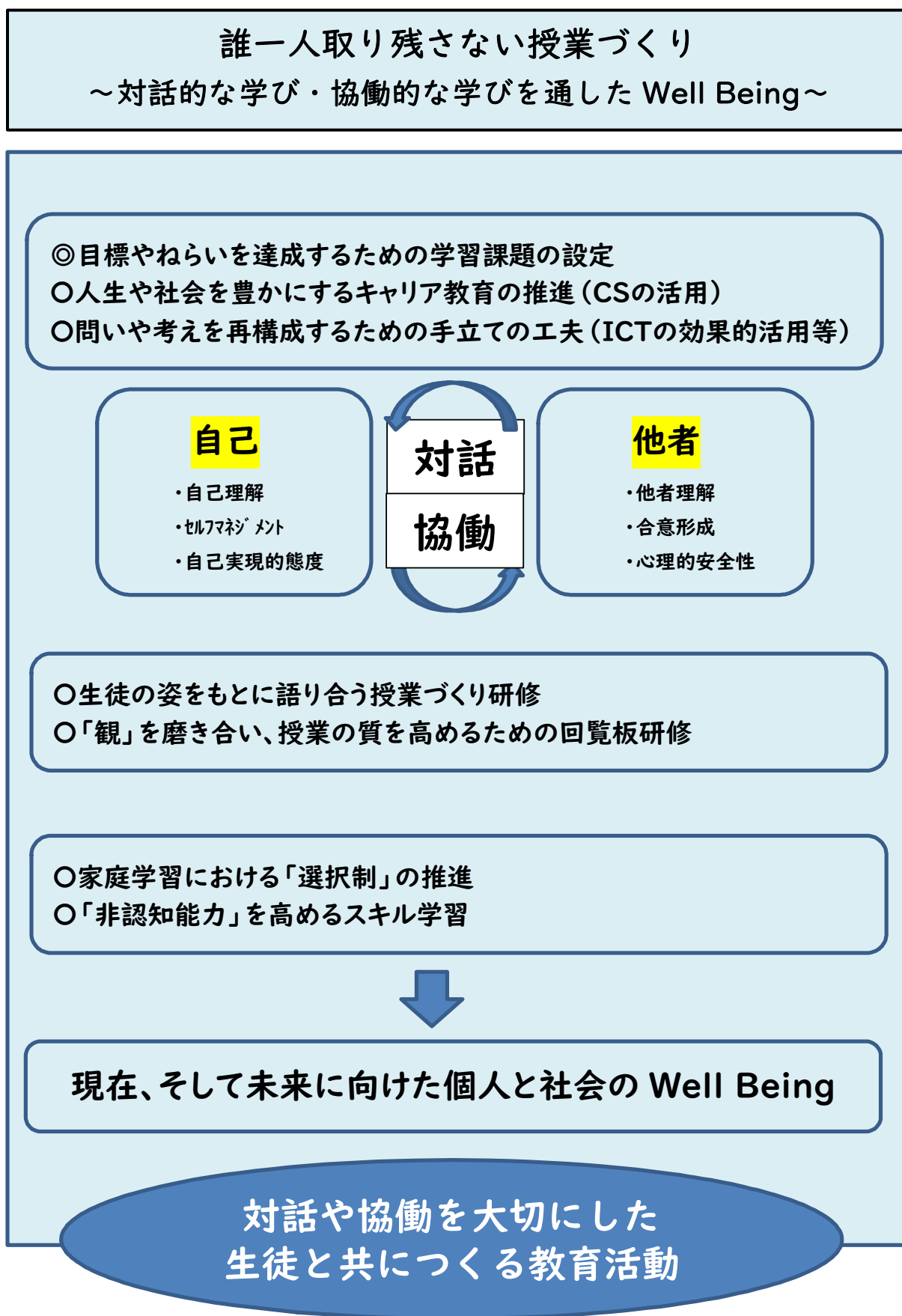
3 今後の展望

正解がない人生をよりよく生きるためには、対話や協働、探究的な視点が必要である。今後も本校で大切にしてきた生徒の「問い」や「思い」を大切にした課題設定を意識し、対話や協働を手段として学びを深める授業づくりを進めていきたい。

キャリア教育については、「キャリア＝仕事」と捉えず、「生き方の探究」とした本校の取組の成果を感じているので、今後は、余暇の過ごし方も含めて「自分の人生や社会を豊かにする生き方」について、生徒の考えをさらに深めていくようなキャリア教育を推進していきたい。校内研修については、自分たちの取組や支援の方法、言葉掛け等が、目指す資質・能力を育むことにつながっているのかを生徒の姿から学び、お互いの「観」を磨き合う研修を今後も進めていきたい。

家庭学習については、本校で推進している「選択制」は、「やらされている学習」「提出することが目的の家庭学習」から卒業する有効な手立てだと感じているが、課題もある。「何のために家庭学習に取り組むのか」を生徒や保護者と共に問い直し、目的意識や学習への必要観をもって主体的に学びに向かえるよう支援をしていきたい。

「誰一人取り残さない授業づくり」を探究する中で、一時間の授業の中の「わかった」「できた」だけを考えるのではなく、教育活動全体を通して、生徒一人一人が自分や社会の Well Being を追究していけるような力を育てていくが大切だと考えるようになった。今後も授業づくりを中核に据え、生徒や教職員、保護者や地域の方々と「共につくる」をキーワードとして学校づくりを進めていきたい。



研究経過

資料 2

【令和 5 年度】

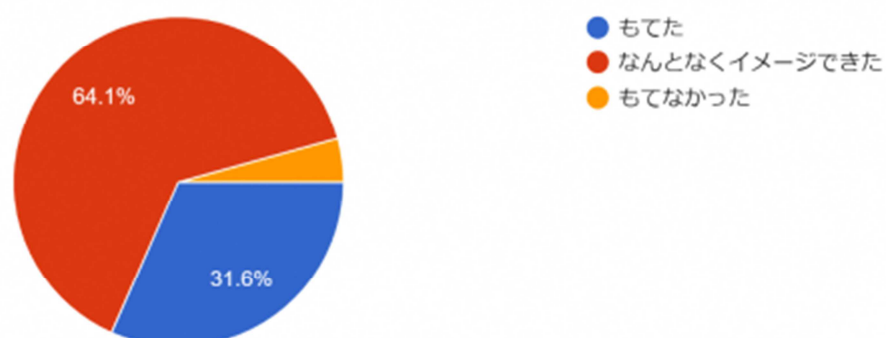
	内 容
4 月 3 日 職員会議	職員会議で「研究の方向性」のビジョンを共有した。
4 月 10 日 全校集会	「誰一人取り残さない授業づくり・学級づくり」を生徒が自分事として捉えられるよう、全校集会で研究イメージ図を共有した。
4 月 19 日 第 1 回校内研修	昨年度の研修の振り返り、よりよい授業づくりをしていくことがよりよい学級づくり、学校づくりにつながることを確認した。
4 月 26 日 回覧板研修①	「誰一人取り残さない授業・学級とは？」というテーマで回覧板研修を行った。
5 月 17 日 第 2 回校内研修	本校生徒の良さや今後の課題を明らかにするために、学年ごと中心授業と研究協議を行った。
6 月 12 日 第 3 回校内研修	静岡教育事務所地域支援課の青木指導主事より、「誰一人取り残さない教育の実現に向けた授業づくり・学級づくり」というテーマで講話をいただいた。また、「よい授業・学級とは？」というテーマで意見交換をした。
7 月 4 日 教科部会	「最近行った授業のねらいと、そのねらいを達成するための学習課題は？」「学習課題を設定する際、意識していることは何か」というテーマで話し合いをした。
7 月 18 日 全校集会	生徒に「誰一人取り残さない授業とはどのような授業か」という問いを投げかけ、集会の後各クラスで話し合いをした。
9 月 27 日 模擬授業研修	10 月の中心授業に向けて模擬授業を行った。
10 月 4 日 家庭学習選択制導入	生徒から「学校からの宿題があると、自分のやりたい学習ができなくなる」という声があがったため、学習部でよりよい家庭学習の方法について話し合い、家庭学習の選択制を導入した。
10 月 18 日 第 4 回校内研修	研究テーマや今年度の取組の振り返りをした。研究を進める中で、改めて「誰一人取り残さない授業づくり」を探究することが、誰一人取り残さない学級・学校づくりにつながると考え、研究テーマを変更した。
10 月 25 日 第 5 回校内研修	公開授業、中心授業、研究協議を行った。
11 月 1 日 回覧板研修②	「10 月の校内研修で学んだことや今後の実践に生かしたいこと」をテーマに行った。
12 月 8 日 第 6 回校内研修	静岡大学現職派遣研究員の榛葉貴博教諭より、「誰一人取り残さない授業づくり～学びのデザインと ICT 活用の工夫～」をテーマに講話をしていただいた。
1 月 17 日 第 7 回校内研修	授業づくりの「追究する」「深める」「まとめる」という段階について、本校で目指す生徒の姿の具体を考えた。

【令和6年度】

	内 容
4月3日 第1回校内研修	新しいメンバーで昨年度までの研修と今度の方向性について確認した。
4月17日 第2回校内研修	非認知能力測定サービスの概要や使い方について学んだ。
5月22日 第3回校内研修	学年部ごと中心授業と研究協議を行った。
6月17日 第4回校内研修	生徒の変容を追うエピソード記録の目的や方法を共有した。また、評価のあり方について意見交換をした。
8月28日 第5回校内研修	研究イメージ図の確認と、研究発表の授業者の事前研修を行った。
9月17日 第6回校内研修	非認知能力測定サービスのアセスメント結果の見方や今後の支援方法について学んだ。
10月9日 第7回校内研修	静東教育事務所より指導監、指導主事を、静岡県教育委員会より教育主査招き、公開授業を行った。また、エピソード記録をもとに本校生徒の変容について学年部ごと話し合った。
10月23日 第8回校内研修	研究発表当日の授業者の指導案検討を行った。本校の授業づくりのポイントを再度確認した。
11月7日 第9回校内研修	研究の概要や研究発表当日の役割分担の確認を行った。これまでの取組を振り返ったことで、自分たちの実践の価値の再確認ができた。
11月13日 研究発表	研究の概要の発表や公開授業、研究協議を行った。
11月27日 第10回校内研修	研究発表を通して見えた成果や今後の課題を共有した。

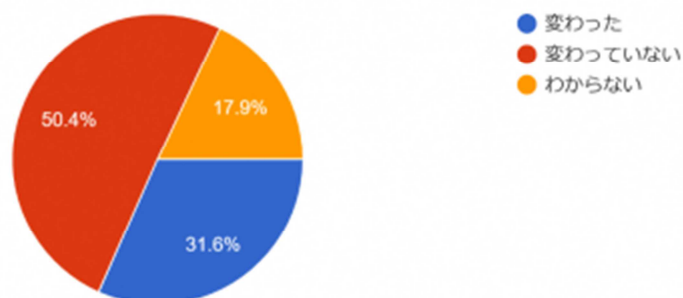
質問6 あなたはキャリア座談会を通じて、将来のイメージがもてましたか？

117件の回答



質問9 あなたは、以前と比べて、「将来、何のために働きたい」か、考えが変わりましたか？

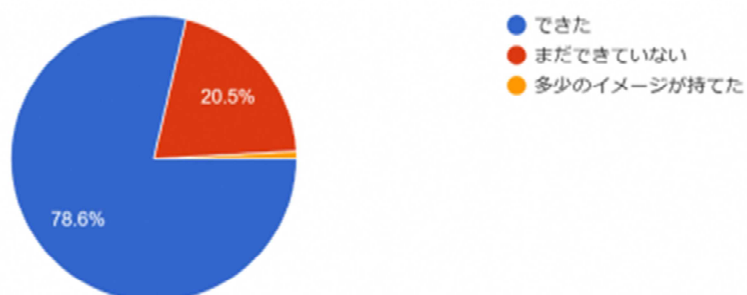
117件の回答



質問10 総合的な学習の時間を振り返り...自分は...る社会の一員になることがイメージできましたか？

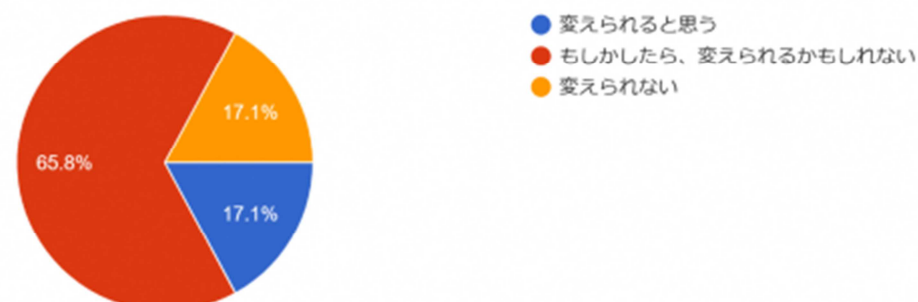
117件の回答

自分はいずれ責任ある社会の一員になることがイメージできましたか？



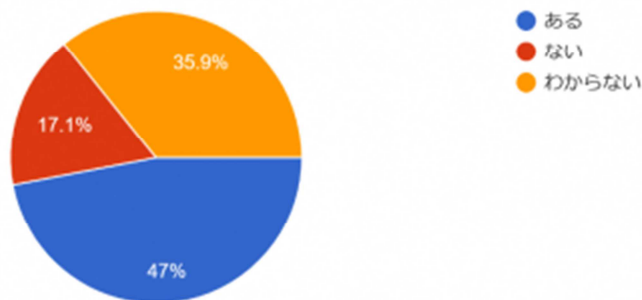
質問11 あなたは将来、下田や地域（国や社会）を変えることができますか？

117件の回答



質問12 あなたは、地域や国に対して、解決したい、よりよくしたいと思う課題がありますか？

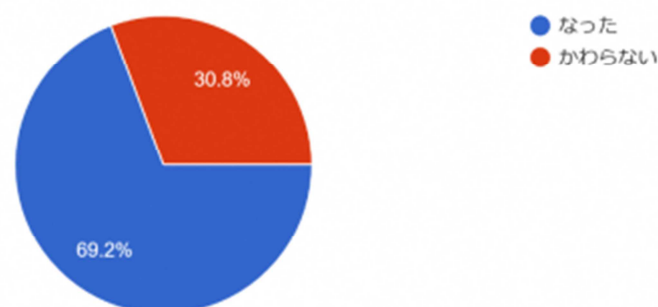
117 件の回答



質問13 あなたは、自分の進路、なりたい職業に...もしくは、家族と話をするようになりましたか？

117 件の回答

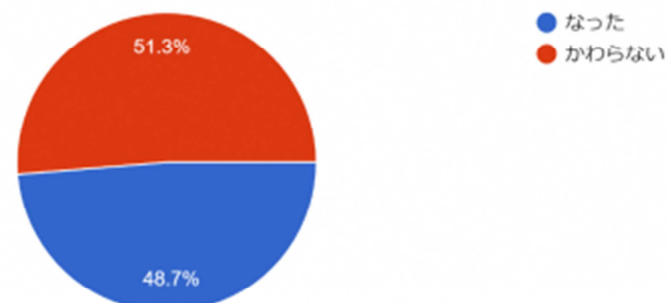
あなたは、自分の進路、なりたい職業について、友達、もしくは、家族と話をするようになりましたか？



質問14 あなたは、下田や地域、社会のニュース...もしくは、家族と話をするようになりましたか？

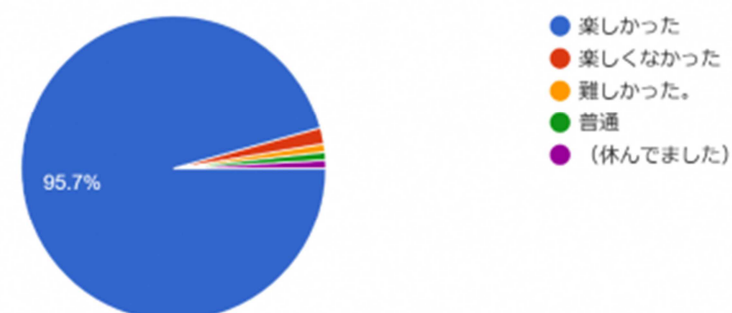
117 件の回答

下田や地域、社会のニュースや課題などについて、友達、もしくは、家族と話をするようになりましたか？



質問17 総合の授業は...

117 件の回答



下田中学校
学習部通信

未来を創る

令和6年10月1日
発行/文責 学習部

「共につくる学び」を目指して

本校では、授業や学校行事、委員会活動など、「共につくる」をキーワードとして教育活動を行っています。生徒や保護者の皆様はもちろんですが、昨年度から設置されたコミュニティー・スクールにより、地域の方々も生徒の学びをよりよいものにしようと教育活動に参画してくださっています。生徒一人一人が自分の人生をよりよく生きていく力が育っていくような学校を、生徒や保護者、教職員、地域の方々みんなで共につくっていききたいという思いを持っています。



さて、1学期末に実施した学校評価の中で、保護者の方から「家庭学習」についてのご意見をいくつかいただきました。このことについて学習部で話し合いをした結果、まず本校の方針について保護者の皆様とお便りを通して共有することが必要ではないかという意見が出ました。家庭学習についても、生徒と保護者の皆様、私たち教職員とで「共につくる」という意識で取り組んでいきたいと考えていますので、ご一読いただけたらと思います。

下田中学校の取組について

授業で学んだことを復習したり、次時の予習をしたりする習慣を身に付け、授業と授業の学びがつながるような家庭学習を目指しています。家庭学習を通して、自分に合う学習方法や家庭学習の習慣などを身につけることができるよう、本校では「家庭学習の選択制」を推進しています。



選択制とは、例えば①:問題集P40・41、②:自学(自分で学習内容を決める)、③:AIドリル、のように家庭学習の内容・方法の選択肢を教科担当が提示し、生徒が自分に必要だと思ったものを選んで取り組むものです。教科は曜日ごと割り振られています。

変化の激しい、予測困難な現代社会を生きていく上で、「主体的に物事を考え、判断する力」は非常に重要です。「言われたことを言われた通りに取り組む」という受け身の学びでなく、「自分は～が必要だから学ぶ」「～ができるようになりたいから練習する」といった主体的な学びの姿勢を育むためにも、「自己選択」「自己決定」の場を大切にしています。

ご家庭でお子さんの学習を見ていると、「これで学習量は足りるのか」「これでできるようになるのか」と疑問をもつことがあるかもしれません。そのようなときは、ぜひお子さんと相談しながら家庭学習を進めてください。

一人一人、学習面の目標は違うと思います。目標が違えば、必要となる学習内容や量も違います。お子さんがどのような生き方をしたいのか。そのために今、どのような学びが必要なのか。保護者の皆様の経験も踏まえながら、「どうやって学習しているの?」「こうするのはどう?」など、お子さんに寄り添いながら、よりよいものを探っていけたらと思います。私たち教員も、授業や日々の生活の中で「学び方」についての助言をしていきますので、生徒一人一人の成長のために、ご家庭でも支えていただくようお願いします。

(4) 下田市教育委員会

1 指定校への支援内容

①令和6年度研修計画の共有

- ・年間研修計画の作成、研究発表会までのロードマップの確認、資料提供等情報共有
- ・指導案等作成に向けての支援

②学校等支援研修への支援（教頭・研修主任との連絡、報告等）

- ・5月22日（水）公開授業（2校時～3校時）/中心授業（4校時）/事後研修
静東教育事務所 青木崇人教育主査
義務教育課 池谷崇仁教育主査、佐藤領教育主査
- ・10月9日（水）公開授業（3校時～4校時）/事後研修
静東教育事務所 羽田稔彦指導監、青木崇人教育主査
義務教育課 池谷崇仁教育主査、佐藤領教育主査
- ・1月15日（水）校内研修（静岡大学 塩田真吾准教授講義）
静東教育事務所 青木崇人教育主査
義務教育課 池谷崇仁教育主査

③令和5年・6年度静岡県教育委員会指定研究（令和6年11月13日）への支援

- ・静東教育事務所、義務教育課との連絡調整
- ・研究発表会要項、案内状、指導案の確認・修正
- ・下田中学校教頭、教務主任、研修主任との打合せ等

④賀茂地域教育振興センターとの連携

- ・指導主事連絡会にて下田中学校の進捗状況を報告
- ・賀茂地域教育振興センター参事、指導主事（賀茂地域5町）に研修への参加を依頼

⑤市内各研修会における下田中学校研究内容の周知の場を設定

- ・定期的な推進校への連絡（授業参観、研修主任との連携、研修計画の修正等）
- ・研修主任研修会、生徒指導研修会等での進捗状況を周知する場を設定

⑥民間企業（地方創生部）との連携を促進

- ・授業づくり、ICT支援等、地方創生に取り組むAKKODIS教育アドバイザーと学校の協働を支援
- ・ICT環境整備の促進（グループウェア活用促進のための研修の設定等）

2 研究成果等の周知について

①市内の各種研修会等で進捗状況を周知

- ・市内研修主任研修会において下田中学校研修主任によるプレ発表を実施

- ・「誰一人取り残さない授業」とは何かを生徒と共に考える。（生徒アンケートとその結果の共有など）

⇒下田中学校の【生徒と共につくる】という一貫した取組が生徒たちの学校へのわくわく感を引き出している。教員も自分の個性を授業づくりに意欲的に生かそうとしている。

また、【生徒と共に（教師と共に）つくる】という意識は、授業づくり・学級づくりだけでなく、学校のルールづくりなど生徒自身が組織形成に参画することに繋がり、生徒会活動（委員会活動）や部活動などにも波及してきている。

- ・回覧板研修（教職員向け）

⇒負担感がなく手軽に取り組み、他教員の考えを広く知ることができる。また、自分の考えを整理することができ、比較もできることから課題について自分の考えを再構成することに繋がる。

②キャリア教育が研究テーマに与えた効果 ～コミュニティ・スクールの存在～

研究テーマである「誰一人取り残さない教育」において、下田中学校では、総合的な学習を中心に進めてきたキャリア教育の存在は大きく、下田中学校がキーワードに掲げた「共につくる」の視点において、地域と密接に繋がり、共につくっていく過程が明確であった。特にコミュニティ・スクールに関しては、学校運営協議会の委員が主体的に進めてくれたことでお互いに負担感もなく、目に見えて相乗効果のある組織構造となっていた。今後は、下田中学校のコミュニティ・スクールでの実績を市内7小学校にも還元できるようにしていきたい。また、教育委員会主催の未来の下田創造プロジェクト、学校の在り方検討会議等の場でもキャリア教育、コミュニティ・スクールを活用した幼小中高の連携ができるのかなど検証を進めることで引き続き、誰一人取り残さない教育の推進に努めていきたい。

③研究発表会後にいただいたアンケート等をもとに年度末の市内研修主任研修会にて改めて研究のまとめを紹介し、研修主任間で共有を図り、市内小学校へ成果と課題を広めていく。

3 その他

コミュニティ・スクールを中心に体験的プログラムを活用した体験学習の実施、外部人材の活用は、生徒たちの校内外での学習を後押ししている。特にコミュニティ・スクール導入時に総合的な学習の時間に特化した人材の確保やプログラムをつくったことが好影響をもたらしている。その他にも英語力向上プロジェクト、体験活動プログラムの実施、英語検定受検の推進など、様々な学校支援の体制が整ったことで学校内外で対話的で協働的な学習活動が推進された。